

生体調節研究会・人間-熱環境系シンポジウム・人間-生活環境系シンポジウム・人間-生活環境系国際会議、睡眠環境シンポジウムから、人間-生活環境系会議、睡眠環境学会設立への経緯

川島美勝 （日本睡眠環境研究所、人間-生活環境系会議初代会長）

人間と環境に関して、問題の本質を把握していくには、課題をシステムとして広く捉え、多くの分野の研究成果を人間-環境系として体系化していく努力が必要であり、成果の有機的な集積は研究者の緊密な集まりが不可欠です。そこで、体温調節系の研究を端緒として、生体調節研究会を発足させ、人間-熱環境系シンポジウム・人間-生活環境系シンポジウム・人間-生活環境系国際会議・睡眠環境シンポジウムを開催し、人間-生活環境系会議、睡眠環境学会の設立へと発展させてきました。以下、発足の時点からの経緯を述べます。

医学と工学の研究者の交流があり、生体の調節機構を工学と医学の両面から協力して解明していこうという気運が起こり、1967年4月に「生体調節研究会」が発足しました。筆者はこの事務局を担当し、研究課題に人間の体温調節系を取り上げ、その特性を測定してきました。そして、この体温調節系は、単に生体の制御情報システムとしての魅力ある課題としてだけではなく、人間の生活と深く関わる衣服、暖冷房、住宅環境などの人間-熱環境系の基礎であるとの認識を深めてきました。

熱環境は人類を含めた全ての生物の生存に基本的に関わるもので、人間-環境系の重要な部門を構成しています。これを正しく捉え、内包する種々の課題を解明していくためには、広い分野の研究者の有機的な協力により体系的に把握していく必要があります。このような趣旨で、1977年8月に空気調和・衛生工学会会議室にて、第1回人間-熱環境系シンポジウムを開催しました。以来、「人間-熱環境系シンポジウム」は毎年1回、学術会議の後援を得て盛況裡に回を重ねてきました。

これまでに、人間の体温調節などに関する生理心理学の基礎データを、一般人、高齢者、身障者、子供等について蓄積し、住宅、事務所、工場、乗り物、古民家などについての調査研究などが行われてきました。そして、消防活動、冷凍倉庫での作業、高低圧環境作業などの特殊環境の問題、あるいは運動時の体温調節、そして夜の生活科学としての睡眠と寝具、寝室環境などの課題が議論されてきました。アプローチする側面も人体の生理・心理、被服、周囲環境、建物などとあり、これらの計測方法についても人の生理・心理、環境の物理計測と多方面に広がっています。この「人間

-熱環境系シンポジウム」を通して、医学、生理学、人間工学、空気調和・衛生工学、被服衛生学、建築学、制御工学、伝熱学などの研究者ならびに住宅、建築、繊維、医療、空調設備、制御機器、消防、自動車産業等の実際面に携わる技術者が幅広く交流を深め、多くの共同研究が行われてきました。

シンポジウムの運営に当たっては、実際の生活や技術に根を張った研究組織を意図してきましたが、多方面からの協力により、真に学際的なシンポジウムとして定着してきたと思われます。1990年頃より、「人間-熱環境系シンポジウム」の内容も熱環境から室内空気質などの課題も含んで拡大してきて、人間-生活環境系へと拡張することが検討されてきておりましたが、第16回人間-熱環境系シンポジウムでのパネルディスカッション「宇宙・地球・都市・建築・衣服・人間を結ぶ」でも示されたように、専門の枠を越えた学際的な研究が必要になって来ていると思われます。

そこで、人間-熱環境系を人間-生活環境系へと広げて「人間-生活環境系シンポジウム」と改称し、より多くの分野の方々に、参加いただいて開催することにしました。それまでの準備委員会も組織として確立することとし、取扱う研究内容が広範囲にわたり横断的であるため、名称を「人間-生活環境系会議」として発足することにしました。

真に学際的な会にしていくためには、従来のどの専門分野からも対等の立場で平等に参画できることが必要であり、全ての研究者、技術者そして生活者に広く開かれて運営されます。

「人間-生活環境系会議」は、人間と生活環境に関連する広い分野の知識や技術を有機的に結合し、人間-生活環境系として体系化を図り、健康で快適に活動できる生活環境の実現に努め、人々の生活の質の向上に貢献することを目的とし、人間-生活環境系シンポジウムの開催、人間-生活環境系に関する実態調査研究、人間の生活環境を快適にするための研究と提言、人間-生活環境系に関する講習会、研修会などの開催、会誌「人間と生活環境」とその他の刊行物の発行、内外の関連する組織および研究者、技術者、生活者との交流および協力活動などの事業を行うことにしました。表1に、経緯と内容を示します。

さらに、夜の生活環境に関する研究を特化するために、日本睡眠環境シンポジウムを開催してきました。

人間は活動と休息を繰返して生きており、充実した活動には十分な休息が必要であり、昼間の生活における環境や衣服の研究と同様に夜間の睡眠環境、寝具の研究は大変重要である。寝具の性能評価と睡眠の質的解明を目的として、1985年8月に第1回睡眠環境シンポジウムを開催し、回を重ねてきた。表2は、ふとんの性能評価、性能表示のために開催した事業の内容です。筆者は、生体調節研究会、人間熱環境系シンポジウム、人間-生活環境系会議、国際人間-生活環境系会議、日本睡眠環境学会等の事務局、会長等を担当して開催し、人間と環境の主題を、一貫して続けてきました。人間の体温調節系等の生体の制御情報システムから始めて、ビニールグローブ・環境体温計等の測定機器、未熟児保育器、消防服、放射能防護服、耐寒救命服、住宅環境調査、乗物環境調査、事務所ビル環境の総合調査、住宅熱環境の全国調査、睡眠環境調査、消防服、防火服などの耐熱性試験機、ふとんの保温性試験機、水分

移動特性試験機、弾力性試験機、耐久性試験機、寝具の性能評価等の人間と生活環境系に関する研究三昧の研究生活を続けて来られたのは、多くの方々のご賛同とご支援のお陰である。今から考えると無鉄砲とも言える「人間-生活環境系」という膨大な学際領域にいきなり飛び込んでしまったお陰で、いろいろな場面に遭遇した一方で、多分野の多才な方々にお会いすることが出来た。謹んで謝意を表する次第である。

日本睡眠環境研究所

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室 671-7

TEL 048-723-3606

E-mail : sse@futon-center.com

横須賀支所

〒238-0313 神奈川県横須賀市武 5-25-10

TEL 046-857-0617、FAX 046-857-4886

E-mail : kawashima_yoshikatsu@ybb.ne.jp

No.	開催年	人間-生活環境系	国際会議	睡眠環境	その他
1	1967	生体調節研究会			
2	1968	〃			
11	1977	第1回人間-熱環境系シンポジウム			
19	1985	}		第1回 睡眠環境シンポジウム	住宅熱環境評価シンポジウム
25	1991		第1回 人間-生活環境系国際会議	～	
26	1992	第16回 〃		第8回 〃 日本睡眠環境学会設立	人間-生活環境系国際会議 開催記念講演会 第1回 高齢者の温熱環境シンポジウム
27	1993	第17回 人間-生活環境系シンポジウム 人間-生活環境系会議 設立		第9回 睡眠環境シンポジウム	
28	1994	第18回人間-生活環境系シンポジウム		}	
29	1995	}			第1回 災害と生活環境シンポジウム 第2回 高齢者の温熱環境シンポジウム
30	1996				第2回 災害と生活環境シンポジウム
31	1997	第21回 〃			
32	1998		第2回人間-生活環境系国際会議		第1回 室内空気質計測シンポジウム 第1回 乗物環境シンポジウム
38	2004			第20回 〃 第21回 〃	
39	2005			第22回 〃	